



神崎町立米沢小学校 学校だより 2025.3.24

大平台だより

No.23

Oohiradai Newspaper 「ほんき・やるき・げんき」全校児童数48名



5年生：リンゴの飾り切り

卒業式 9名の児童が巣立っていきました*

3月18日、卒業証書授与式を行いました。風のない穏やかな春の日でした。主役の卒業生はもちろんのこと、在校生も立派な姿勢で式に臨んでいました。9名の6年生、残念ながら、1名は体調不良でお休みでしたが、みんなこの日まで、とても熱心に卒業式の練習に取り組んできました。



卒業証書授与では、一人一人が真剣なまなざしで、堂々と証書を受け取ることができました。どの子も自分の卒業式をやり遂げようと一生懸命でした。

この日は、町教育長小川泰求様を始めたくさんのご来賓の方々にもお越しいただき、卒業生の晴れの姿を見届けてくださいました。卒業生は、告辞や祝辞をいただいたときだけでなく、来賓紹介でもしっかりと所作で、感謝の気持ちを伝えていました。



卒業証書授与



祝辞 小川教育長



卒業生「お別れの言葉」



卒業の歌「変わらないもの」

在校生の送る言葉、歌「明日につなぐもの」は、とても素晴らしかったです。全員が背筋をピンと伸ばし、メッセージを送っている姿は、卒業生の胸を打ったことでしょう。みんなで作ったとてもよい卒業式になりました。卒業生には、「為せばなる」の精神で頑張ってください。

3月19日＊待望の雪が降りました

3月19日は、朝から雨が降っていました。子どもたちが登校するころ、ばらばらと雹も降ってきました。きっと、このまま、雨に戻ってしまうのだろうと思っていたところ、2時間目の休み時間に教室の窓の外が白っぽくなってきて…雨がみぞれに変わりました。「先生、雪です！」と2年生の子が外に出ました。みんな喜んでいました。雪に変わることはないだろう、ああ、雪の積もったジャンボスロープでそりをすべらせたいなと思っていたら……願いが叶って、なんと雪に変わりました。

教室をのぞくと、5年生はプログラミングの課題に挑戦していました。雷には全く動じず黙々と課題に向かっている子も。

花壇のパンジーの上にも雪がどんどん積もっていった、子どもたちは大喜び！！わくわくは止まりません。

子どもたちは外に出て、大はしゃぎ。ちょうど、3年生の学習のために火をおこしていた七輪を見つけた1年生が、うれしそうに冷たくなった手を温めていました。

石川県にご実家のある先生が、雷が鳴ったとき「雪雷ですね。北陸の方は、雷が鳴って雪が降ることがよくあるのですよ。」と教えてくれました。生まれて初めて聞く言葉でした。そこでちょっと調べてみました。



わあーい！雪だ、雪だ！



息も白いね！



あったかーい！



Search

雪雷は、「ゆきいかづち」「せつらい」と読む。雷雪(らいせつ)ともいう。字のごとく雪が降るときに発生する雷のことで、雪が多く降る北陸や東北などで発生する。北陸地方では「雪おこし」と呼ばれ、雪が降る前の前兆や雪が激しく降るタイミングで聞くことができる。

関東ではめずらしい。

滑走距離が一番長かったのは彼！最高！



雪の積もったジャンボスロープでそりすべりを楽しむ子どもたち

昔の道具：七輪

3年生が、社会科のまとめとして、七輪でお餅を焼きました。お餅がふくれた瞬間、子どもたちは大喜びでした。初めてお餅が膨らんだ瞬間を見たという子も。雪が降る寒い日でしたが、みんなピロティーでおいしいお餅をほお張りしました。

七輪は、昔の道具かもしれませんが、炭で餅を焼く経験がなかった子どもたちにはとても新鮮だったようです。便利な道具のある今の暮らしは、昔の人の苦労があったからこそ実現していることも忘れないようにしてほしいと思いました。



米沢小HPはこちら